

運転曲線作成システムSPEEDYの 運転時隔算定機能

Headway Calculation Function in SPEEDY:
System for Train Performance Evaluation, Drawing and Analysis

概要

基準運転時分や運転時隔は、輸送計画を作成する上で基本となるデータです。SPEEDYは、基準運転時分の算出に必要な運転曲線を自動作成するシステムです。本展示では更なる輸送計画作成業務の支援に向け、機能向上したSPEEDYの運転時隔算定機能を紹介します。

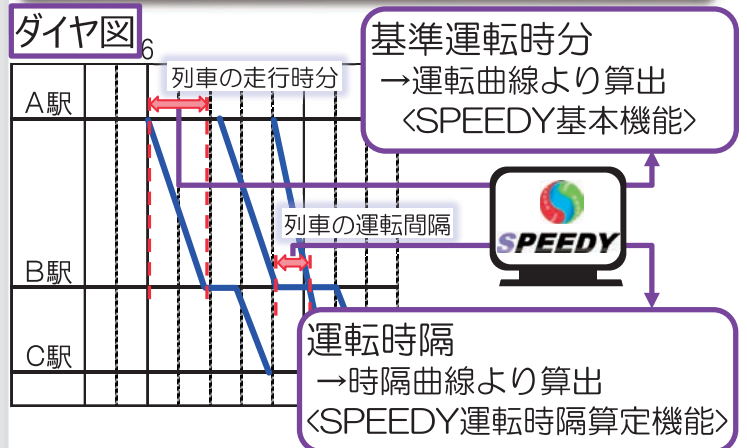
特徴

- 線路上の各種速度制限や制約事項を守り、かつ列車性能を十分に発揮した運転曲線を速やかに作成できます。また、作成された運転曲線の運転方法を修正することもできます。
- 運転曲線をもとに、続行時隔、追込・開通時隔、交差支障時隔の算出に必要な各種時隔曲線を作成できます。

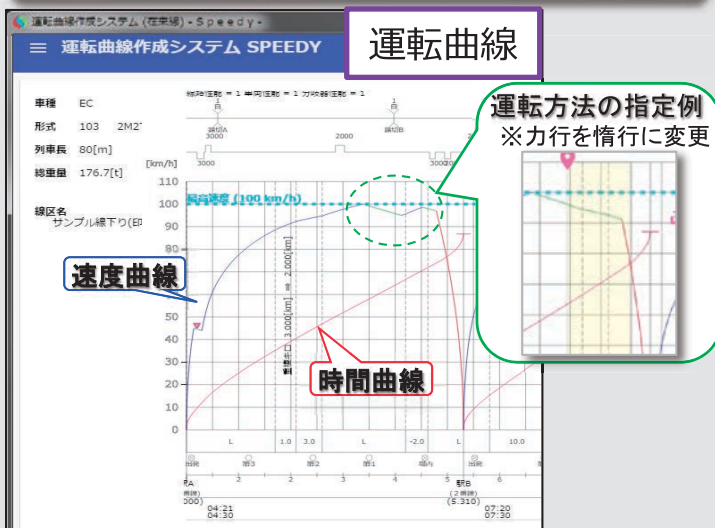
用途

- 基準運転時分策定のためのツールとして、様々な走行条件を反映した駅間走行時分の算出に活用できます。
- 運転設備計画時の検討ツールとして、様々な走行条件や信号設備条件を考慮した運転時隔の算出に活用できます。

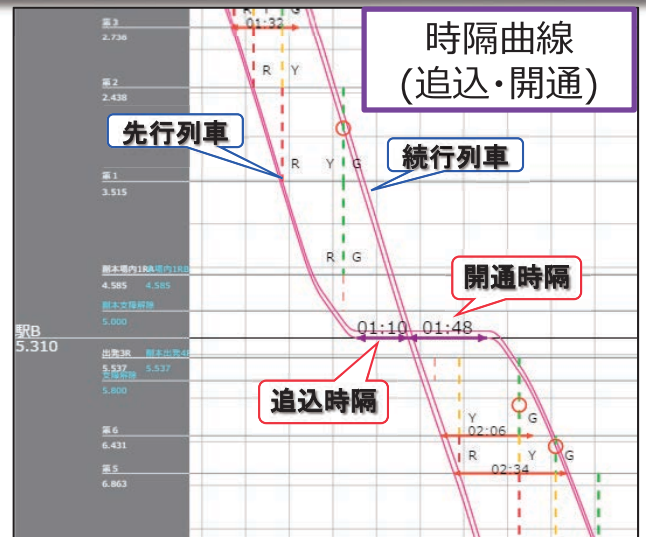
■ 輸送計画とSPEEDY



■ 運転曲線の作成結果



■ 時隔曲線の作成結果



SPEEDYの動作画面

■ 運転曲線の作成方法

走行条件の設定

区間

車種の選択

乗車率

使用番線

曲線通過条件等

駅間最高速度

運転曲線

操作パネル (表示・出力設定など)

速度曲線

時間曲線

速度制限

勾配

駅 (番線)

キロ程

走行時分

信号・トンネル

■ 信号現示系の設定

信号配列の展開

信号の配列 (本線)

信号の配列 (副本線)

信号現示系の設定

信号

信号現示の遷移

現示系の設定方法

■ 時隔曲線の作成方法

信号現示系の選択

時隔条件 (続行) の設定

信号確認距離の計算条件 (続行列車)

列車の走行条件

時隔曲線 (続行)

信号現示の遷移

接近可能な位置

信号

続行列車

先行列車

続行時隔

駅

※ 追込・開通時隔および交差支障時隔の計算では、2列車分の走行条件や進路を構成するための条件などが必要になります。